

海水配管トレンチ建屋接続部 止水工事の進捗について

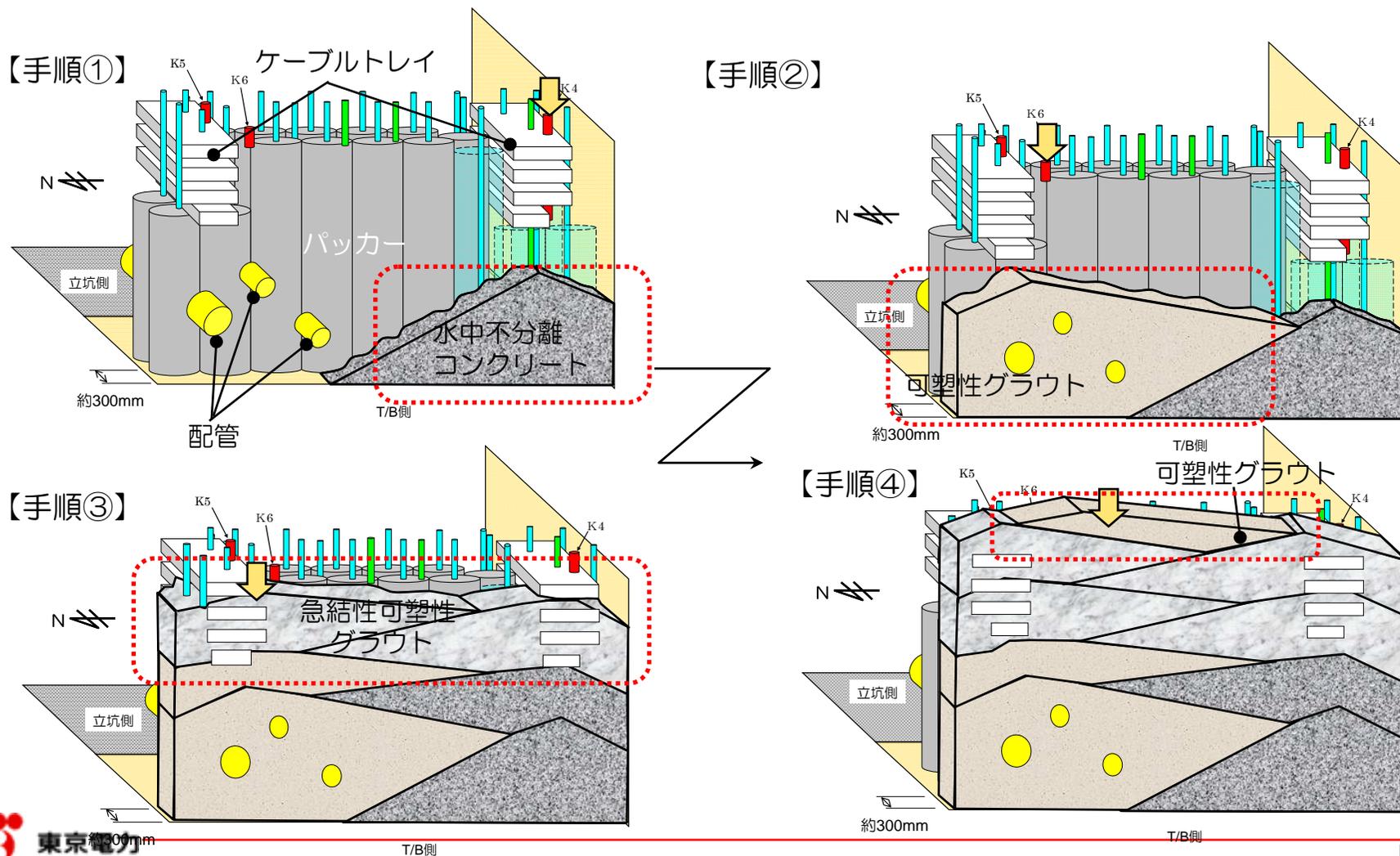
平成26年10月31日

東京電力株式会社

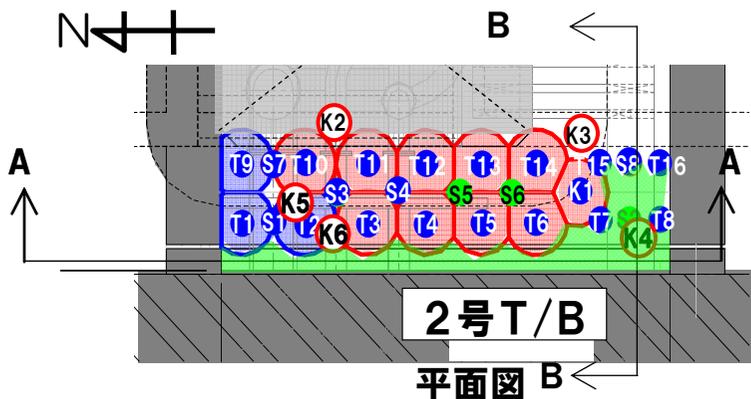
2号機海水配管トレンチ閉塞工事 立坑A 間詰め充填の施工手順

- 十分な止水性を確保し、凍結弱部を強固にするために間詰め充填を実施中。
- 南側のパッカーがない箇所については、成長した氷を利用して、水中不分離コンクリートを打設。

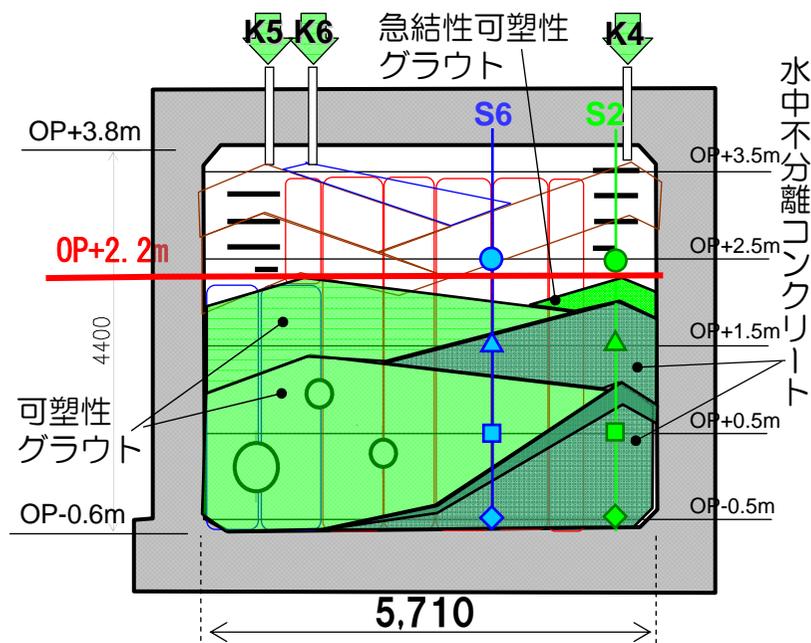
- 北側についてはパッカー部に想定される隙間を充填することを目的に流動性の高い可塑性グラウトを打設。
- ケーブルトレイ部は、短時間で固まる急結性可塑性グラウトを打設。



2号機海水配管トレンチ閉塞工事 立坑A 間詰め充填状況 (10/29実績)



2号機海水配管トレンチ
立坑A間詰め充填状況



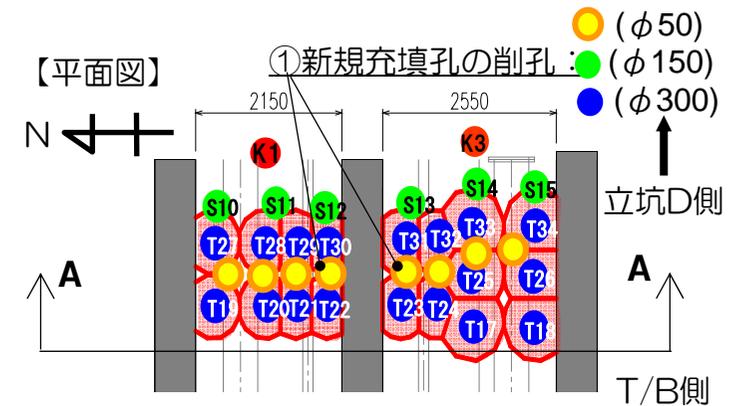
間詰め充填状況 (想定)

名称	種類	打設高さ	累計打設量
立坑A	水中不分離 コンクリート	OP+1.9m	9m ³
	可塑性グラウト	OP+2.2m	3m ³
	急結性可塑性 グラウト	OP+2.2m	3m ³

※ 10/20～充填開始

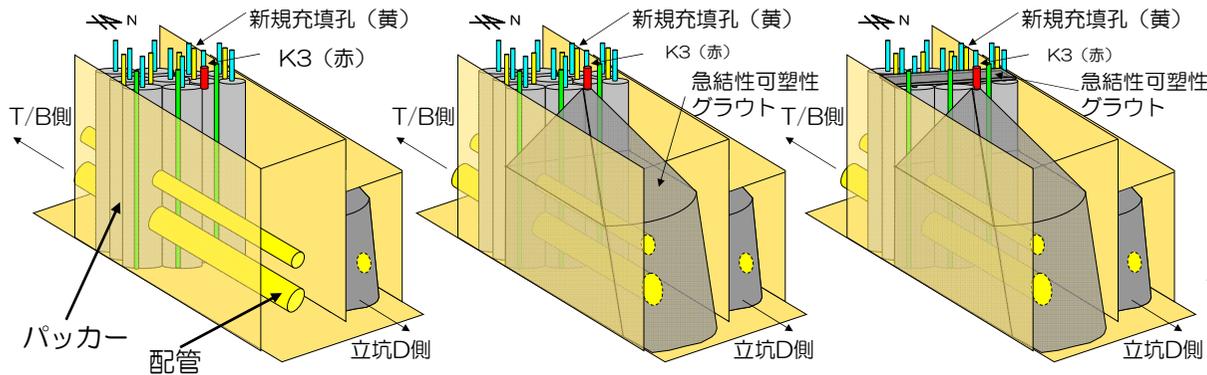
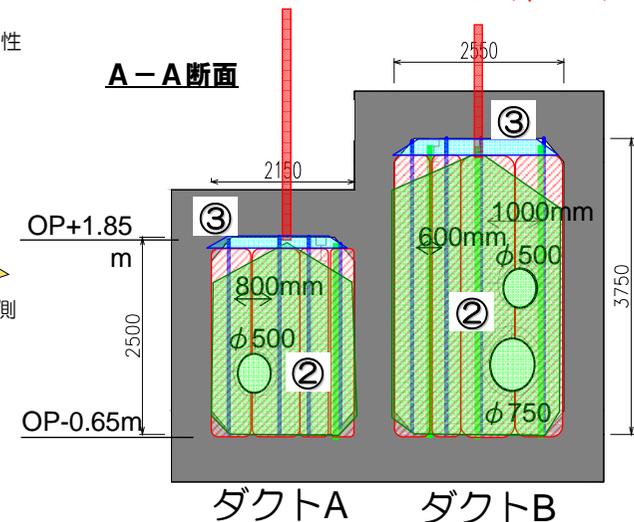
2号機海水配管トレンチ閉塞工事 開削ダクト 間詰め充填の施工手順

- ①パッカー上部に新規充填孔を削孔（上部充填孔の確保）
- ②パッカーを片側型枠として、配管まわりを充填するために、K1,K3孔から急結性可塑性グラウトを打設
- ③パッカー上部の新規充填孔から、急結性可塑性グラウトを打設



K1 (φ300) K3 (φ150)

A-A断面



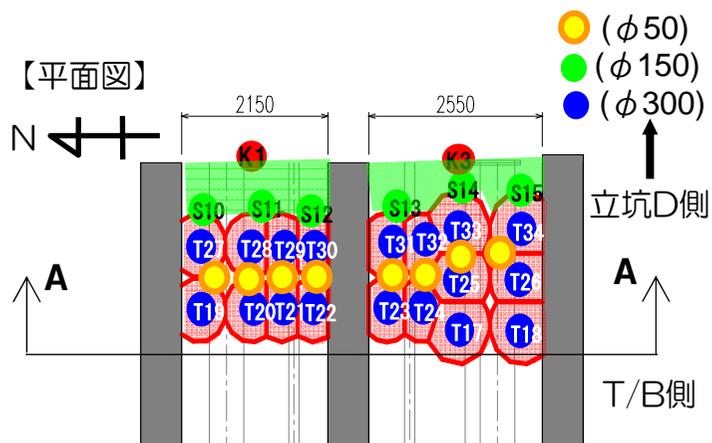
①新規充填孔削孔

②K3孔充填時

③新規充填孔充填時

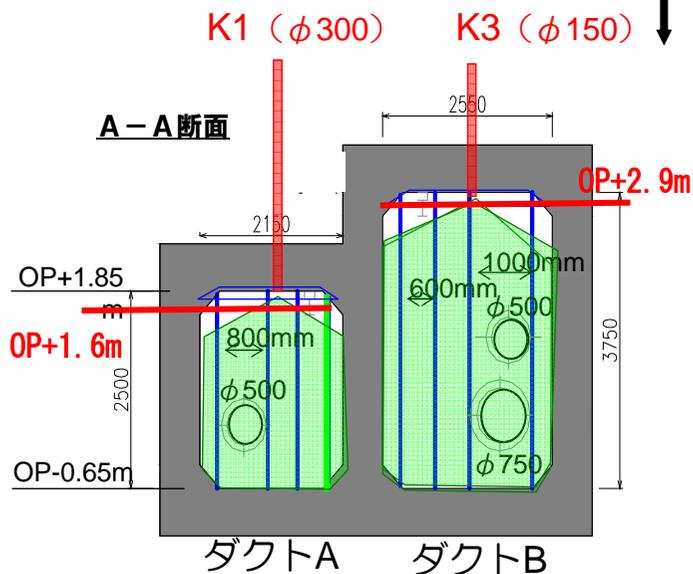
間詰め充填イメージ (ダクトBの例)

2号機海水配管トレンチ閉塞工事 開削ダクト 間詰め充填状況 (10/29実績)



充填孔付近の様子

2号機海水配管トレンチ
開削ダクト間詰め充填作業の様子



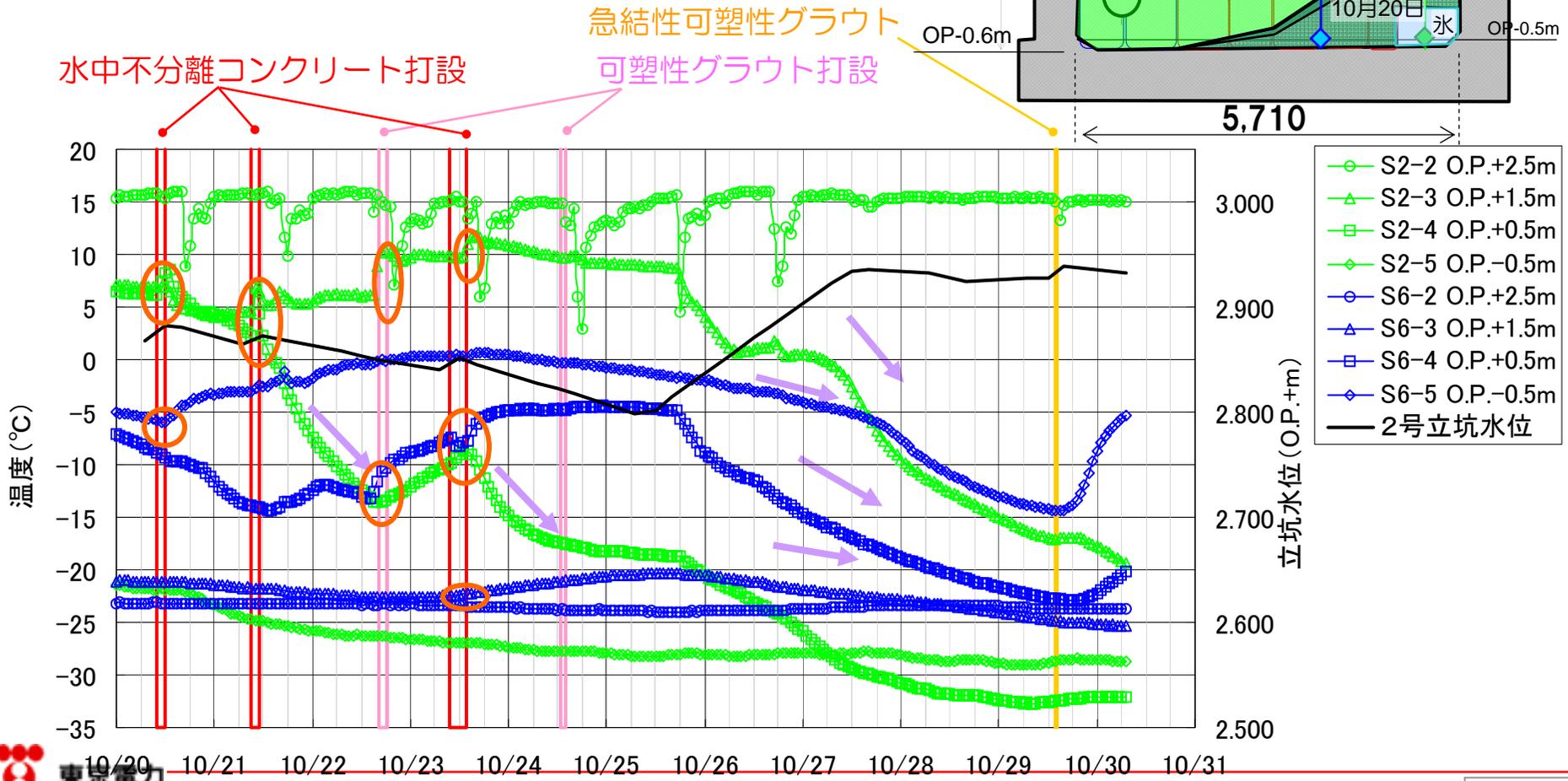
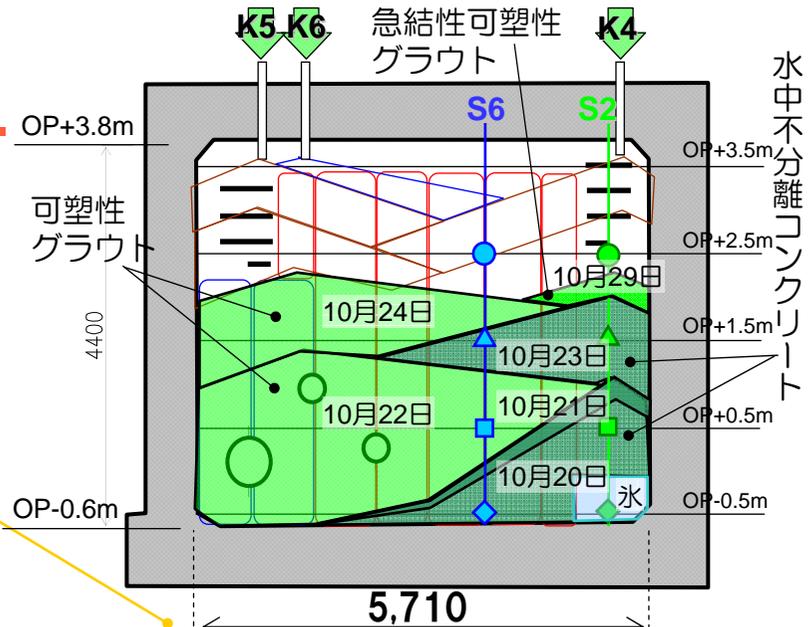
名称	種類	打設高さ	累計打設量
ダクトA	急結性可塑性 グラウト	OP+1.6m	累計11m ³
ダクトB	急結性可塑性 グラウト	OP+2.9m	累計24m ³

※ 10/16～充填開始

間詰め充填状況 (想定)

【参考】間詰め充填中の温度変化

- ・間詰め充填材料を打設直後は、温度が上昇（グラフの○部）。特に測温管と間詰め充填材料が直接接触れるS2において、上昇が顕著。
- ・その後、全体的に温度は低下傾向（グラフの紫矢印）。



【参考】 2, 3号機海水配管トレンチ建屋接続部止水工事における線量の評価

- ▶ 防護壁の設置・砕石の敷設・タングステンベストの着用により線量低減対策を実施。
- ▶ 作業内容と累積線量の大小の間に相関性は見られない。

作業別の累積線量(2~9月)分布

